

道路の緑（街路樹）

感じる緑

日ごろから接する機会の多い緑に、並木に代表される道路の街路樹があります。

道路には、人や物を安全かつ円滑に移動させる本来の役割のほかに、緑を導入し、都会の中で四季を感じさせたり、潤いのある都市空間をつくる役目もあります。

最近では並木などに工夫をこらした、安全で快適に歩ける道路が作られています。

現在、東京都内の街路樹は約100万本、道路内の緑地は約478万㎡あり、各管理者が管理しています。このうち東京都では、都内の街路樹の約65%にあたる約65万本を、緑地の約48%にあたる約230万㎡を管理しています。その他は国や区市町村で管理しています。



新小金井街道＜小平市＞



多摩御稜線＜八王子市＞



絵画館前＜港区＞



武蔵境通り＜調布市＞



八丈一周道路＜八丈島＞

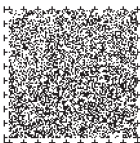


一般都道153号線＜立川市＞

東京都内の街路樹の主な樹種と本数本数 1,000,983 本（令和6年4月1日現在）

都内道路の街路樹ベスト5

順位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	その他	合計
都内全体	ハナミズキ	イチョウ	サクラ類	トウカエデ	ケヤキ	772,487	1,000,983
	60,838	59,137	42,798	36,660	29,063		
都道	イチョウ	ハナミズキ	トウカエデ	プラタナス類	ケヤキ	556,875	645,213
	27,432	19,276	17,319	13,806	10,505		
国道	イチョウ	マデバシイ	プラタナス類	ケヤキ	トウカエデ	10,936	24,095
	7,184	1,640	1,631	1,405	1,299		
区道	サクラ類	ハナミズキ	イチョウ	クスノキ	ケヤキ	132,976	205,940
	22,410	19,128	13,683	9,682	8,061		
市町村道	ハナミズキ	サクラ類	イチョウ	トウカエデ	ケヤキ	61,534	125,735
	21,244	12,477	10,838	10,550	9,092		



ガス橋通り＜大田区＞



みゆき通り＜港区＞

道路の緑のいろいろ

道路交通を妨げない場所に様々な緑があります。

- 街路樹は道路に並木状に植えられた樹木のことです。
- 中央分離帯・交通島は、車両の安全かつ円滑な通行を確保する部分で、道路中央に帯状にある部分を中央分離帯、大きな交差点などで車や人を分離する島状の部分を交通島と呼んでいます。大きく育った樹木を見ることも出来ます。



中央分離帯 多摩ニュータウン通り<多摩市>



交通島 新青梅街道<東村山市>

- 壁面・法面緑化は、道路敷地内の壁面にツタ類等を這わせた部分や法面を緑化した部分です。



壁面緑化 新小金井街道<小平市>



法面緑化 府中街道<府中市>

- 緑化道路は、道路と接する公園などと一体的に緑を整備した部分です。四季の花木を植えたり舗装や照明を工夫しています。まちかど庭園は、道路敷地内の緑地や利用可能な場所を活用してうるおいのある空間を創りだしています。

このほか、狭い歩道でも緑化できる「ロードトレリス」という、ネットフェンスにツル性植物を絡ませた緑もあります。



緑化道路 内堀通り<千代田区>



ロードトレリス 主要地方道第59号線<八王子市>

道路の緑

道路の緑の役割

街路樹は色々な働きを持っています。街路樹などが持つ大切な働きについて紹介します。

- まちを美しく見せたり、四季の移り変わりを知らせてくれます。生き生きとした緑は、野鳥や昆虫を呼び、私たちの心に落ち着きと安らぎを与えています。



表参道<渋谷区>

- 夏の日差しをさえぎったり、排気ガスや騒音を和らげたりして、道路沿いの環境を守ります。また、運転者の視線を導いたり、まちの目印になって、安全で快適な交通を守ったり、災害時の火災などから人々を守る役割もあります。



大島一周道路<大島>



環七通り<杉並区>

街路樹の充実

平成20年度から開始した「街路樹の充実事業（街路樹100万本計画）」により、グリーンロードネットワークの充実に向け街路樹の植栽を進め、平成27年度末には計画通り100万本を達成しました。

現在、これまで整備した街路樹について、きめ細やかな維持管理を充実させ、成熟した都市にふさわしい「魅せる街路樹」の整備に取り組んでいます。その一環として、歩道幅員などの状況を踏まえ、計画的な剪定などにより、暑さ対策として樹冠拡大による緑陰確保を進めています。



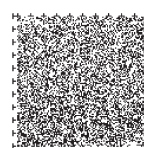
靖国通り<新宿区>



外堀通り<中央区>



外堀通り<文京区>



街路樹ガイド

現在植えられている街路樹の樹種は都道の高木だけでも45種類以上あります。それらの樹種が街路樹として採用されているのはなぜでしょうか。街路樹の樹種を決めるポイントは、次のようなことです。

- ①木の形が整然として美しく、枝葉が密生して夏期に緑陰を作ること。
- ②成長力、萌芽力が強く整枝、剪定に耐え成育が良好なこと。
- ③病虫害、大気汚染、風害などに強く、沿道の景観に調和すること。
- ④生育空間、植栽地の土壌などの諸条件に適すること。
- ⑤地域の人や道路を利用する人に親しまれること。
- ⑥苗木の入手がしやすく、維持管理が容易なこと。

しかし、このような条件を全て満たす樹種はなかなかありません。それぞれの樹種の特性を考えて適材適所に植えられています。

次に紹介する15樹種は、都道の代表的な樹種です。そのプロフィールと主な植栽場所を紹介します。

#01 アオギリ アオギリ科

日本では、沖縄に自生する落葉高木です。この木の特徴は、桐の葉に似た大きな葉と緑色の樹皮です。特に葉の大きさは、街路樹として使われている木の中で最大級です。成長は早いほうで、耐湿性があり、強風、大気汚染にも強いので街路樹として使われています。他の樹木と比べて新芽の時期が遅いのが特徴です。秋にはさやに入った大きな実を付けます。



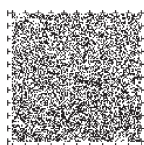
アオギリの実

見 所

外苑西通りの国立競技場から北の靖国通りまでの区間、大田区内の産業道路



外苑西通り<都立明治公園脇>



#02 イチョウ イチョウ科

中国原産で高さ30m程になる落葉高木です。1億年程前から生き延びており、生きた化石とも言われています。

街路樹としては円錐形に仕立てることが多く、秋には美しい黄葉が見られます。

イチョウには雄と雌があり、街路樹に用いるのは臭い実【ギンナン】がない雄の木が適しています。病虫害が少なく、大気汚染にも強い木です。寒さにも強く日本全国ほとんどの場所で生育できます。

街路樹としては、都道で一番多く植えられており、昭和41年「東京都の木」に選ばれました。



JR八王子駅前

見 所

杉並区内の青梅街道、立川市内の新奥多摩街道、目黒区内の目黒通り

★東京駅から皇居へ向かう行幸通りでは大正15年に植えられたイチョウと平成21年に植えられた新旧のイチョウが見られます。



行幸通り
<丸の内東京駅前>

#03 エンジュ マメ科

中国原産で高さ15m程になる落葉高木です。小枝は年中緑色、葉は奇数羽状複葉です。7～8月に枝先に黄白色の花を咲かせ、それが散ると数珠状にくびれた実を多数ぶら下げます。この実を野鳥が好んで食べるので、鳥を呼ぶ木としても知られています。成長は早いほうで大気汚染に強く、肥料もあまり必要としないので育ちやすい木です。



エンジュ・花と実



見 所

大田区内の環状八号線

#04 クスノキ クスノキ科

日本の暖地に自生する常緑高木で高さ40m程にもなります。古くから社寺仏閣などに植えられ巨木も多く馴染み深い木の一つです。中国名を樟というように幹、葉から樟脳油がとれます。

新芽をよく観察すると、赤いものと明るい緑のものがあります。また、若葉の萌えるような緑も美しい木で、根付くと成長も早く、排気ガスなどの害にも強く、豊かな緑量と堂々たる樹姿が都市の景観にマッチし、街路樹や公園を始め、高層ビルの周辺の植栽などに用いられています。

見 所

多摩市内の多摩センター駅(西側道路)から尾根幹線の区間、調布市小島町の甲州街道から神代植物公園に向かう武蔵境通り



武蔵境通り<調布市富士見町>

#05 ケヤキ ニレ科

日本を代表する落葉高木の一つです。樹形がほうき状になり、独特の雄大な姿になります。

春の芽吹き、夏の緑陰、秋の紅葉、冬の裸木と四季折々の美しさを見せてく

れます。街路樹や公園の景観木として広く用いられています。ケヤキはクヌギやコナラ、シデ類とともに武蔵野の代表的な樹木で、都道でも区部よりも多摩地域で多く用いられています。



志木街道<清瀬市下清戸>

見 所

原宿の表参道、新宿副都心、杉並区内の中杉通り、八王子の多摩御陵参道、柚木の野猿街道、高尾の宮ノ前線、清瀬市の志木街道



新宿副都心<新宿区西新宿>

#06 コブシ モクレン科

山野に自生する高さ15m程に成長する落葉高木です。サクラに先駆けて枝先に白い花を咲かせ、春の訪れをいち早く伝えてくれる木として親しまれています。

コブシは開花時に花の下に葉が出るので、葉より花が先に咲くハクモクレンとは見分けが付きま



コブシ・花と実



見 所

多摩都市モノレール路線と平行して走る芋窪街道の立川市泉町から西武線玉川上水駅の区間

#07 サクラ類 バラ科

高さ10m程に成長する落葉高木で、3月下旬から4月初め頃に一斉に咲き、一気に散る様子が人々に人気があります。

日本のサクラは園芸品種を含めると数百種になるといわれています。その中で街路樹としてはソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラなどが一般的に用いられています。

特に、ソメイヨシノは「東京都の花」に指定されており、個人の庭、公園、学校などに幅広く使われています。

しかし、病害虫に侵されることが多く、アメリカヒロシトリなどの害虫が付き易いなどの性質も持っています。



ソメイヨシノ



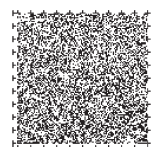
ヤマザクラ

見 所

千代田区内の内堀通り、小金井市貫井地内の新小金井街道



中野通り<中野区中野>



#08 シダレヤナギ ヤナギ科

中国原産の落葉高木です。古い時代に渡来し、平安京の通りに植えられたと言われています。ヤナギの仲間は300種類以上ありますが、街路樹として使用されているのはシダレヤナギで、樹勢が強く、低湿地にも耐えます。

水辺にもよく映え、商店街でも垂れた枝が風になびき客をなびかすということで各地に植えられましたが、新芽にアブラムシなどの害虫が付き、風に弱いなどの理由などで、年々街路樹の管理本数を減らしています。

見 所

中央区外堀通り土橋から有楽町の区間

★皇居周辺の内堀通りにはシダレヤナギの街路樹の並木があります。桜田門交差点から祝田交差点の国道区間のお濠側には、銀座のヤナギの二世が植えられています。



お堀とヤナギ

#09 トウカエデ ムクロジ科

名称のトウは「唐」を意味し、中国原産の落葉高木です。樹勢が強く、土質を選ばずよく生育し、秋には美しく紅葉し、落葉後の細かな枝の姿はこの樹木の特徴です。

カエデ属の仲間はどれも葉が対生(枝の同じ位置から左右に葉が出る)であるのが特徴で、葉の形が似ているモミジバフウとはこの点が大きな違いです。



葉の出かた・対生

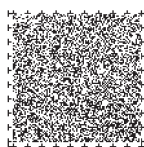
見 所

新青梅街道の田無から青梅までの区間

★都道では多摩地域に多く植栽されています。



新青梅街道<小平市大沼>



#10 トチノキ トチノキ科

日本全国の山地に自生する落葉高木で、高さ30m程になります。大型の葉は掌状複葉で特徴があります。5月頃枝先に、円錐形に集まった白色の花をつけ、秋には大きな実をつけます。



葉と花

見 所

国道1号線桜田門交差点から霞ヶ関までの区間、立川市の昭和記念公園南側の道路



国道1号線<千代田区霞ヶ関>

#11 ハナミズキ ミズキ科

北米・メキシコ原産の高さ10m程になる落葉高木です。

明治中期に東京からワシントン市に送ったソメイヨシノの返礼として、アメリカから送られてきました。初期には植物園、公園に植えられていた程度でしたが、近年は、街路樹に多く植栽されています。

4月下旬頃に樹冠一杯に花を咲かせます。色は白のほかに桃色や赤などがあり、秋には赤い実も美しい木です。昭和50年代後半から多くの道路に植栽され、街路樹の代表樹種になっています。



紅葉時期のつぼみ



春の開花



秋の実

見 所

小平市内の新小金井街道、あきる野市睦橋通り



新小金井街道<小平市大沼> 紅白のハナミズキ

#12 プラタナス類 スズカケノキ科

明治の初め渡来した樹木で、高さ30m程にもなる落葉高木で、アジア産のスズカケノキ、北米産のアメリカスズカケノキ、イギリスで栽培されたモミジバズカケノキの主に3つの種類があり、それらを総称してプラタナスとも呼ばれています。成長するにしたがって樹皮がはがれ、幹にまだらに模様が見られます。適応性があり、世界の各都市に見られます。旺盛な成長力があり、道路での生育環境を維持するため、年に1〜2回の剪定が必要で、病害虫が付きやすく日々の維持管理には手間がかかります。



花と実



見 所

新宿区内の早稲田通り、渋谷区内の旧玉川水道道路、中央区内の新大橋通り
★三種類の大きな樹形が日比谷公園で見られます。



新大橋通り<中央区築地>

#13 マテバシイ ブナ科

沿岸地域に自生する高さ15m程になる常緑高木です。葉は大きく固く厚みもあり、葉の一枚も遠くから見分けられ、シイノキなどと比べ明るい感じの樹木です。丈夫で耐潮性もあり、大気汚染にも強いです。6月頃開花し翌年の秋に実(ドングリ)が成熟します。



新 芽

見 所

小平市の新小金井街道、江東区内の永代通り

新小金井街道<小平市回田町>



#14 モミジバフウ マンサク科

北米原産の落葉高木で高さ25m程になります。葉がモミジに似て切れ込みがあり、その名の由来になっています。葉が似ていても、カエデの仲間ではありません。大きな違いは、葉が互生(枝から互い違いに葉が出る)につくことです。枝をよく観察するとコルク質の「翼」と呼ばれるものがあります。



鮮やかな紅葉

見 所

環八通り、外苑西通り、千代田区道丸の内仲通り

外苑西通り<港区>



#15 ユリノキ モクレン科

北米東部原産で明治初期に渡来した樹木です。原産地では高さ60mにもなる落葉高木です。

葉の形がハンテンに似ているのでハンテンボクという別名があり、5〜6月にチューリップに似た美しい花を咲かせます。この木は幹や枝が折れやすいのが欠点ですが、大木に育つので広い歩道に向く樹木です。



花と紅葉



見 所

四谷迎賓館前、内堀通り
(日比谷交差点〜靖国通り)



外堀通り<新宿区四谷>

